

製品名: CLK4 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab09051**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	65kDa

抗原情報

遺伝子名	CLK4
別名	CLK4; Dual specificity protein kinase CLK4; CDC-like kinase 4
遺伝子 ID	57396.0
SwissProt ID	Q9HAZ1
免疫原	抗血清はヒト CLK4 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 101-150

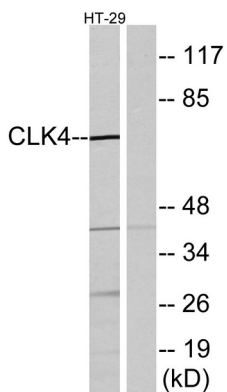
背景

CDC 様キナーゼ 4 (CLK4) ホモサピエンス この遺伝子によってコードされるタンパク質は、CDC2 様タンパク質キナーゼ (CLK) ファミリーに属する。このタンパク質キナーゼは、スプライソソームの形成に重要な役割を果たすことが知られているセリンおよび

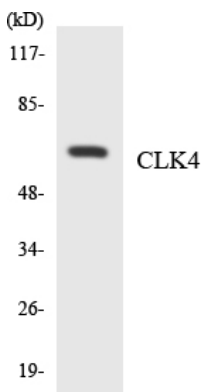
アルギニンリッチ (SR) タンパク質と相互作用し、リン酸化することができるため、選択的スプライシングの制御に関与している可能性がある。イスラエルのスナネズミ (Psammomys obesus) を用いた研究では、高度に保存されたユビキチン様タンパク質であるユビキチン様5 (UBL5/BEACON) が、このキナーゼと相互作用し、その活性を制御する可能性が示唆されている。複数の選択的スプライシングを受けた転写バリエーションが観察されているが、その全長は未だ解明されていない。 [RefSeq 提供、2008年7月],触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。機能: スプライセオソーム複合体のセリンおよびアルギニンリッチ (SR) タンパク質をリン酸化する。SR タンパク質が RNA スプライシングを制御することを可能にする調節機構ネットワークの構成要素である可能性がある。セリン、スレオニン、チロシンをリン酸化する。MAPT/TAU の選択的スプライシングの制御に必要。PTM: 3種類の残基すべてを自己リン酸化。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。CMGC Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。Lammer サブファミリー。類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含む。サブユニット: UBL5 と相互作用する。組織特異性: 肝臓、腎臓、心臓、筋肉、脳で発現する。、

研究分野

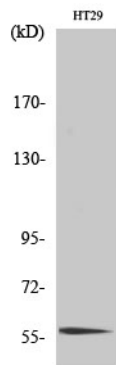
画像データ



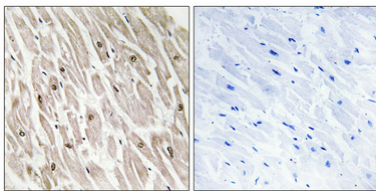
HT-29 細胞ライセートの CLK4 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



CLK4 抗体を使用した HeLa 細胞の溶解物のウェスタン ブロット分析。



CLK4 ポリクローナル抗体を使用したさまざまな細胞のウエスタン ブロット分析。



パラフィン包埋ヒト心臓の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晩) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。